

「第7回通常総会開催報告」



〈挨拶をする一色理事長〉

2011年5月16日(月)13:30～横浜市青少年育成センター第一研修室にて、(N)ワーカーズ・コレクティブ協会第7回通常総会が開催されました。

参加者・来賓、役員・事務局・傍聴人合わせて89名の参加をいただき、会場は満席に近い状態となりました。

冒頭の一色理事長の挨拶では、東日本大震災に触れ、「困難な状況下で地域における人と人との絆や助け合いの気持ちが見直されています。協会の事業である、誰でもいっしょに働ける社会的事業所モデルとしての「キッチンぼらん」の存在や、2010年横浜市から受託した「困難を抱える若者の就労定着支援事業」においても、私たちが実践してきた助け合いや困難な状況下におかれた人々と社会との接点を生み出してきた経過とも重なります。ワーカーズ・コレクティブの存在意義を再確認し、さらに前に進んでゆきたい」との力強い言葉がありました。

議事審議においては、「第1号議案」2010年度の活動報告の承認、「第2号議案」2010年度決算報告の承認、2010年度剰余金処分案の承認、監査報告、「第3号議案」2011年度活動方針、「第4号議案」2011年度予算の決定 それぞれ活発な討議が行われ、質問、意見があり、すべて賛成多数により承認されました。「第5号議案」においては特別決議として「誰でも安心して暮らし続けられる地域社会を作ろう」を読み上げ拍手にて採択し、第7回通常総会を終了いたしました。(上田 祐子)

〈こんな質問がありました〉

質問：総会議案書に書かれている「共同連が中心になっている社会的事業者制度制定に向けた活動に参加します」と書いてあるが、その活動について知りたい。

回答：社会的事業者とは、障害者、ひきこもりの若者、シングルマザー、高齢者、野宿者、薬物依存者など、様々な働きにくさ、生きにくさを抱えて労働市場から排除されている人々に、労働参加を進めることで社会的排除をなくしていく事業者をいい、働いているメンバーのうち彼らが何割か占めているのが条件です。効率が求められない彼らの働き場は、何らかの公的な支援が必要であり、事業の継続も含めて、この事業所のあり方を認知し、支援制度を作ろうというものです。ぼらんはその意味でも社会的事業所と言えます。

質問：協会の活動の重要なテーマについて教えてほしい。

回答：協会の就労支援事業で、働きたくても働けない人たちやひきこもりの若者たちにワーカーズ・コレクティブの働き方が優位性を発揮している。このことを通して長時間の常勤労働以外に短時間労働の必要性が見えてきた。ワーカーズ・コレクティブの価値が市民社会の理解を得ることでワーカーズ・コレクティブの継続も担保できる。ワーカーズ・コレクティブを市民社会に広げるために、法制化を進める運動も視野に入れた活動をしている。



〈質疑応答の様子〉